

2017年3月21日

各位

小野薬品工業株式会社

米国 X-Chem 社と創薬提携契約を締結

小野薬品工業株式会社(本社:大阪府中央区、代表取締役社長:相良暁、以下「当社」)は、X-Chem, Inc.社(米国マサチューセッツ州ウォルサム市、最高経営責任者:Rick Wagner、以下「X-Chem 社」)と、本日、がん領域における新規低分子制御薬の創製を目的とする創薬提携契約を締結しましたので、お知らせします。

今回の契約締結により、当社は X-Chem 社に対して契約一時金を支払うとともに、提携期間中の研究資金およびライセンス料、研究開発の進捗に応じたマイルストーン、および上市後は売上高に応じたロイヤルティを支払います。

X-Chem 社は研究資金の提供を受け、今後、同社独自の低分子化合物ライブラリ技術である DEX™ 技術を駆使し、当社が創薬標的として選択した複数のがん領域における創薬標的に対する新薬候補化合物の創製に取り組みます。当社は、今回の提携により創製される化合物を全世界で独占的に開発・商業化する権利を保有します。

当社の執行役員研究本部長である巾下広は、「当社は、X-Chem 社の DEX™ 技術を高く評価しています。今回の提携を通じて、がん領域における革新的医薬品の創製につながることを期待しています」と述べています。

X-Chem 社の最高経営責任者である Rick Wagner 氏は、「X-Chem 社は、日本で最も歴史のある製薬企業の 1 社である小野薬品と提携できることを非常にうれしく思っています。X-Chem 社はこの 3 カ月で日本の製薬企業と 3 件の提携を開始しており、当社の DEX™ 技術が、革新的医薬品を創製する技術として世界の製薬企業から認知されるよう、今後とも努力していきたいと考えています」と述べています。

<参考>

X-Chem 社について

X-Chem 社は、米国マサチューセッツ州のウォルサム市に本拠を置き、付加価値の高い医薬品の標的分子に対する低分子制御薬を創製するバイオ製薬企業です。同社は、ロシュ社、アストラゼネカ社、アレクソン社、MD アンダーソンがんセンター、サノフィ社、ヤンセン社をはじめとする、製薬企業やバイオ企業、アカデミアと数多くの提携を行っています。

詳細については、<http://www.x-chemrx.com/>をご覧ください。

DNA-Encoded X-Chem (DEX™) ライブラリおよびその技術基盤について

DEX™ ライブラリの膨大な化合物数と多様性によって、既存のスクリーニング手法では化合物取得が難しかったものを含め、幅広い創薬標的に対し高活性かつ選択的なリード化合物を高確率で見出すことができるようになりました。また X-Chem 社はライブラリデザイン、スクリーニング手法、バイオインフォマティクスといった各分野における独自のイノベーションを利用することを可能にし、それも DEX™ 基盤技術の大きな特徴の1つになっています。特に X-Chem 社のデオキシリボ核酸 (DNA) 標識ライブラリは、他社の DNA 標識ライブラリに比べて多様な化学反応が利用可能であり、フラグメント分子、低分子複素環式化合物、大環状化合物などの多様性に富んだ低分子化合物ライブラリです。このライブラリの多様性と活性分子探索に関する高い技術力が、難易度が高いとされる創薬標的に対するリード化合物の創出において高い成功率を実現しています。

DNA 標識技術について

X-Chem 社は、1,200 億個以上の化合物ライブラリを創薬エンジンの基盤としており、その化合物数は今も増え続けています。自動コンビナトリアル合成によって構築されるこのライブラリでは、すべての低分子化合物がその構造を特定するために DNA で標識されています。標的に対するスクリーニングを行う際、ライブラリは化合物の混合状態で用いられ、標的に結合する化合物は DNA 標識によって“釣り上げ”られます。ライブラリの持つ高い多様性により、標的に対し高い親和性を有する複数の化合物群が、構造活性相関の情報とともに得られ、その構造活性相関情報は、取得した高親和性化合物を医薬品へと迅速に合成展開するために利用することが可能です。既存の評価系による活性評価には DNA 配列情報によって解読された化合物情報を基に DNA 標識のない化合物を合成して使用します。

以上

<本件に関する問い合わせ先>

小野薬品工業株式会社 広報部

TEL : 06-6263-5670

FAX : 06-6263-2950